

## グループディスカッション資料

グループディスカッション 平成 27 年 12 月 27 日 (日) 15:45~16:45

GD を踏まえた討論会 " 16:45~18:00

### ■グループディスカッションの内容

- ・解放座談会、事例発表を踏まえて、以下の 2 つのいずれかのテーマ、または両方のテーマについて参加者間で意見交流してください。
- ・議論した内容については、テーマごとに模造紙にまとめてください。

#### テーマ 1 「児童生徒の心に響き、行動を変える授業とは？」

- ・防災教育の実効性を高めるためには、児童生徒の災害に対する“我がこと感”や“リアリティ”を高めることが求められます。
- 一配布した 3 つの授業案を確認していただき、このような授業を通じて、児童生徒の災害に対する“我がこと感”や“リアリティ”を高めるために、考慮すべき点は何でしょうか？
- 一配布した 3 つの授業案以外に、児童生徒の災害に対する“我がこと感”や“リアリティ”を高めるために、どのような発問がありえるのでしょうか？

#### テーマ 2 「地域と連携した防災教育」

- ・地域と連携した実践的な防災教育を行うことにより、児童生徒の“主体性”や“他者を思いやる心”、“地域への愛着”などが高まることが指摘されています。
- 一配布した前回の防災教育推進連絡協議会において得られた知見を参考に、児童生徒の“主体性”や“他者を思いやる心”、“地域への愛着”などが高まるために、具体的にどのような実践が考えられるでしょうか？
- 一これまでに各校で実践されてきた取組を振り返り、より効果的な防災教育とするためには、どのような改善が必要でしょうか？

### ■グループディスカッションを踏まえた討論会

- ・グループディスカッションを踏まえて、参加者全員で討論します。
- ・各グループの代表者からグループディスカッションで議論した内容を 3 分程度で発表していただきます。

### ■グループディスカッションの班分け

- ・グループディスカッションの班分けは、裏面のとおりです。

G8	
松本 潤	新宮市立緑丘中学校 教諭
山本 博章	田辺市立大塔中学校 教諭
三浦 洋志	高知市立城西中学校 教諭
佐藤 康徳	徳島市立津田中学校 教諭
今津 浩美	黒潮町教育研究所 研究員
森 靖子	黒潮町立佐賀中学校 教諭
宮地 清明	黒潮町立大方中学校 教諭

G9	
福田 哲也	新宮市教育委員会 指導主事
高理 誠	田辺市立明洋中学校 校長
大向 わか子	能登町立小本中学校 校長
小西 正志	徳島市立徳島中学校 教諭
岡本 恵子	黒潮町立佐賀中学校 教諭
宮川 昭二	黒潮町立大方中学校 教諭
阿田 恵	黒潮町立大方中学校 教諭

G5(中学校)	
中野 敬太	尾鷲市立輪内中学校 教諭
峠合 節生	田辺市立衣笠中学校 教諭
五十嵐 一浩	三条市立第四中学校 教諭
木下 拓介	大坂市立鶴見橋中学校 校長
文野 友喜	黒潮町教育研究所 所長
篠田 圭子	黒潮町立佐賀中学校 教諭
酒井徳太郎	黒潮町立大方中学校 事務
村越 多代	黒潮町立大方中学校 町事務

G6	
興村 隆志	尾鷲市教育委員会 指導主事
谷本 明	田辺市立新住中学校 教諭
小川 龍	輪島市立輪島中学校 校長
宮田 龍也	高知市立城西中学校 校長
畦地 和也	黒潮町教育委員会 次長
山下 美子	黒潮町立佐賀中学校 教諭
森田篤永子	黒潮町立佐賀中学校 校務員
筒井 祥子	黒潮町立大方中学校 教諭

G7	
森浦 展行	新宮市立城原中学校 教諭
山根 千明	田辺市立中辺路中学校 教諭
廣澤 孝俊	能登町立能都中学校 教諭
川島 彰允	大坂市立鶴見橋中学校 教諭
西本 真哉	黒潮町立佐賀中学校 教諭
坂本 留美	黒潮町立佐賀中学校 教諭
淵田 歩	黒潮町立大方中学校 教諭

G3	
中村 佳栄	尾鷲市立真田小学校 教諭
太田 真次	田辺市立芳野小学校 校長
佐藤 昭夫	聖徳町立運野小学校 校長
国友 広和	黒潮町教育委員会 校長
武政 愛	黒潮町立孝ノ川小学校 講師
二岡 裕幸	黒潮町立佐賀小学校 教諭
久万 敏彦	黒潮町立上川口小学校 教諭
下元 真由	黒潮町立南郷小学校 教諭
川田 由美	黒潮町立立人野小学校 教諭
沖本夕紀子	黒潮町立立人野小学校 教諭
下元 祐子	黒潮町立田ノ口小学校 教諭
山口 温子	黒潮町立田ノ口小学校 養教諭
布 正人	黒潮町立三浦小学校 校長

G4	
柳埜 亮明	新宮市立三輪崎小学校 教諭
樋口 善一	田辺市教育委員会 指導主事
栗林 啓次	牟岐町教育委員会 社会教育指導員
山本 明彦	黒潮町立孝ノ川小学校 教諭
中藤 俊也	黒潮町立伊与野小学校 教諭
新田 浩文	黒潮町立上川口小学校 校長
萩森 文香	黒潮町立南郷小学校 養教諭
藤原 純香	黒潮町立立人野小学校 教諭
山崎 千香	黒潮町立立人野小学校 事務
梅田 まゆ	黒潮町立田ノ口小学校 校長
北村 幸子	黒潮町立田ノ口小学校 事務
江口 真之	黒潮町立田ノ口小学校 講師
西村さやか	黒潮町立三浦小学校 教諭

G1(小学校)	
林 宣行	串本町立丘登小学校 教諭
丹後 祐貴	田辺市立田辺第三小学校 教諭
上田 好美	牟岐町立牟岐小学校 教諭
渡辺 敏心	黒潮町立佐賀小学校 校長
夕部 由美	黒潮町立伊与野小学校 教諭
瀬田 俊二	黒潮町立伊与野小学校 校長
山岡 史子	黒潮町立上川口小学校 教諭
則 ルリ	黒潮町立南郷小学校 校長
田中 聡子	黒潮町立立人野小学校 教諭
平林美和子	黒潮町立田ノ口小学校 教諭
矢野 香澄	黒潮町立田ノ口小学校 校務員
中平 常喜	黒潮町立田ノ口小学校 教諭
梶内 剛	黒潮町立三浦小学校 教諭
龜中 暲	黒潮町立三浦小学校 教諭

G2	
大川 太	尾鷲市立浜小小学校 教諭
中田 詩子	田辺市立田辺第二小学校 教諭
松井 謙太	尾附市教育委員会 校長
川村 雅志	黒潮町教育委員会 校長
南 晴吉	黒潮町立孝ノ川小学校 教諭
渡辺 春夫	黒潮町立上川口小学校 教諭
野口 美紀	黒潮町立南郷小学校 教諭
芝 雅人	黒潮町立立人野小学校 校長
中平 蕨	黒潮町立田ノ口小学校 教諭
寺岡 水香	黒潮町立田ノ口小学校 教諭
野見 光	黒潮町立田ノ口小学校 教諭
岡本 幸定	黒潮町立三浦小学校 教諭
池上 巖	黒潮町立三浦小学校 教諭

## 第2回 防災教育推進連絡協議会 in 田辺市 から得られた知見

### Point①『授業の内容・位置づけの転換』 “学び” から “気づき” を引き出す

(これまでの防災授業(学習) = 「防災に関する知識」の教示)

※心の葛藤が生じる “心ゆさぶる発問(問いかけ)” が重要

- ・家具の下敷きになった家族…助ける? / 一人で逃げる?
- ・地震発生時に自宅に一人 …家族を待つ? / 一人で逃げる?
- ・目の前に逃げ遅れた人が …助けにいく? / 助けにいかない?

⇒ 「災害に対するリアリティ」「わがごと感」の向上

※他者の存在を意識させ、「地域の課題への気づき」を促す

- ・一人で避難することが困難な高齢者や未就学児
- ・防災について無関心な大人

⇒ 「命の大切さ」「他者への思いやり」の向上

### Point②『家庭・地域との連携のあり方の見直し』 “気づき” から “実践” につなげる

(これまでの連携 = 「とにかく何か一緒に活動する」)

※家庭や地域と繋がる “しかけ” を企画・アレンジする

#### ●家庭や地域と “連携した取組” の実践

- ・家具の下敷きになった家族 ⇒ 「家具の固定をする」
- ・地震発生時に自宅に一人 ⇒ 「家族間で信頼関係を構築する」
- ・一人で避難することが困難な高齢者や未就学児 ⇒ 「一緒に避難訓練を実施する」
- ・防災について無関心な大人 ⇒ 「防災マップをつくって、地域の人に知らせる」

⇒ 「コミュニケーション力」の向上

#### ● “他者からの評価” を得る機会” をつくる

- ・成果発表会を開催する
- ・児童生徒の提案を大人(行政など)が実現する

⇒ 「自己肯定感」「自己有用感」の向上

### Point③『継続的な防災教育の実践体制の構築』 “実践” から “学び” がうまれる

(これまでの学び方 = 「教師による教え込み」、「受動的な学び」)

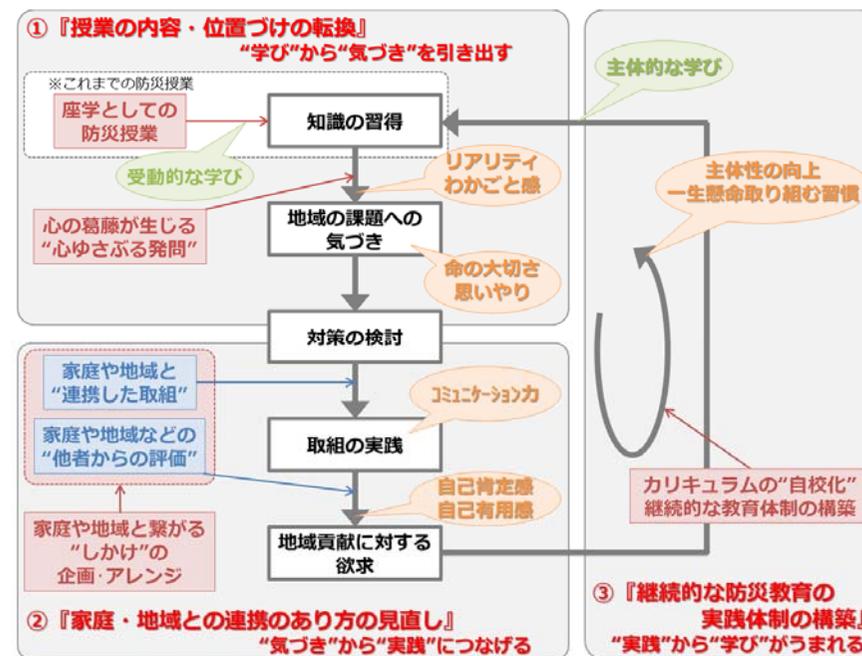
※防災教育カリキュラムを “自校化” し、継続的な教育体制の構築する

- ・「共に学ぶ」、「児童生徒の主体的な学び」が継続する仕組みを構築する
- ・防災教育を通じた “人づくり” に対するビジョンを全職員で共有する
- ・管理職のリーダーシップ

⇒ 「主体性」の向上

⇒ 「一生懸命取り組む習慣」の形成

児童生徒の “主体的な学び” の継続がもたらす教育効果



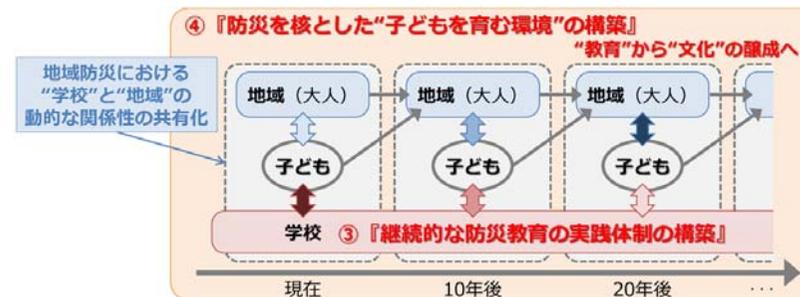
### Point④『防災を核とした “子どもを育む環境” の構築』 “教育” から “文化” の醸成へ

(これまでの地域防災 = 「地域防災」と「学校教育」は別部局の対応)

#### ●地域防災における “学校” と “地域” の動的な関係性の共有化

- ・学校、地域、行政が、“防災を核とした地域づくり” に対するビジョンを共有する  
「学校における防災教育の継続が、次世代の地域住民(大人)をつくる」  
「地域住民(大人)の姿勢が、子どもへの教育効果の多寡に影響する」
- ・首長、教育長などの理解

防災教育の継続と地域防災力の向上の動的メカニズム



## 命の教育 授業案

### その1 (田辺市立芳養小学校研究授業案より)

- 対象学年 : 小学校5年生  
 ■ねらい : 『災害の状況を幅広く想定し、命を守るために今できることを主体的に考えることを促す』

	学習活動	主な発問(◆) 予想される子どもの反応(◇)	指導上の留意点(◎) 評価のポイント(※)
導入	1) 災害時の対応を振り返る	◆大きな地震がきたら、あなたはどうしますか？ ◇家 ⇒命を守る備え ◇家 ⇒高台へ避難する ◇学校⇒机の下へ ◇学校⇒運動場へ避難する	◎具体的に避難の様子について答えさせ、その行動が実際にできるのかを考えながら答えさせる
展開	2) 避難ができない状況を想定する	◆避難場所に避難できない場合とはどんな状況ですか？ ◇こけつげがをしたとき ◇何かにはかまれて動けなかったとき ◇走るのが遅かったとき ◇物が倒れてきたとき ◇走れないようなケガをしたとき	◎訓練のようにすぐに避難できない状況を考えさせ、その原因を数多く探らせる ◎今の備えで本当に大丈夫なのかという意識を持たせる
	3) 命の危険がある想定を行い、自分の高津を判断する	◆あなたの大切な人が、身動きがとれない状態で、津波がきます。その時、そばにいるあなたはどうしますか？ ◇自分の命を守らなければならないから、逃げる ◇大切な人を置いては逃げられない	◎避難できない状況を想定させ、その場面にいる立場と当事者の立場を考えさせる
	4) 自分の判断の結果、考えられる想定を行う	◆あなたの判断の結果、あなたは幸せになりますか？ ◇幸せではない	◎児童が考えた行動が、後にどのような結果になるのかまで考えさせる
まとめ	5) 大切な命を守るために、今の自分ができる準備は本当に万全なのかを考える	◆あなたの地震や津波についての備えは、これまでと同じでいいですか？ ◇よくない ◇変える必要がある	◎これまでの避難訓練への取り組み方や避難に対する準備について、改善点とその理由を述べさせ、主体性の共有を図る
	6) 最善の備え方について考え、授業をまとめる	◆自分が不幸にならないために、今できる最善の準備とは何ですか？なぜ、それが必要だと考えましたか？	

### その2 (黒潮町津波防災教育プログラムより)

- 対象学年 : 小学校3～4年生  
 ■ねらい : 『自らで判断して、行動することの大切さを知る』『日頃から、家族と信頼関係を築いておくことを促す』

	学習活動	主な発問(◆) 予想される子どもの反応(◇)	指導上の留意点(◎) 評価のポイント(※)
導入	1) 大きな地震が発生した場合、どうしたらよいかを復習する	◆大きな地震が起きたら、どうしたらよかったですでしょうか？ ◇すぐに高いところへ避難する ◇学校にいた場合には、避難訓練の通りに行動する	◎“揺れたら高いところにすぐに逃げる”ことを確認する ◎“いざというときに、本当に逃げられるのか”という点に興味を持たせる
展開	2) 様々な状況にあるときに地震が発生した場合を想像し、どうするかを考える	◆お風呂に入っていたときに地震があったらどうする？ ◇裸のまま逃げる／洋服を着て逃げる ◆寝ているときに地震があったらどうする？ ◇パジャマで逃げる／着替えてから逃げる ◆逃げようとしたときに、飼っているペットが見当たらなかったらどうする？ ◇ほっといて逃げる／探していく ◆逃げようとしたときに、弟や妹が見当たらなかったらどうする？ ◇ほっといて逃げる／探していく	◎“地震はいつどんな状況のときに発生するかわからない”ことをおさえる ◎頭ではわかっているけど、“すぐに逃げる”ことのできない状況がある”ことをおさえる ◎“日頃から、そのようなときにどうしたらよいかを考えておくことが大切である”ことをおさえる
	3) 一人でいた場合の対応を考える	◆自宅に一人でいるときに、大きな地震が発生したらどうする？ ◇一人ですぐに高いところへ逃げる ◇親が帰ってくるのを待つ、親に電話する	◎“お父さん・お母さんは、みんなが大事だから、みんなが『待つ』のであれば、きっと迎えにくる”ことをおさえる
	4) 資料「津波でんでんこ」を読み、お父さんお母さんが迎えにきてしまったときのことを考える	◆大輝くんは、一人で逃げちゃったけど、これでよかったのかな？ ◆もし、大輝くんが一人で逃げられない子で、お父さん、お母さんが迎えにきてしまったらどうなっていたでしょう？	◎“お父さん・お母さんが迎えにきたら、津波に流されてしまう可能性がある”ことをおさえる ◎“お父さん・お母さんが迎えにくるのは、みんなに「一人では避難できないのではないかな」と思われているから”であることをおさえる ◎“避難方法を相談しておくことはもちろん重要だが、何より大事なことは、『一人でいてもみんなはちゃんと逃げの子』だとお父さん・お母さんに信頼してもらうことである”ことをおさえる
	5) 家族みんなで助かるためには、どうしておくべきかを考える	◆お父さん、お母さんが迎えにこないようにするためにはどうしたらよいでしょう？ ◇お父さん・お母さんに“ちゃんと逃げて”と言う ◇日頃から、別々の場所にいるときの避難方法を相談しておく	◎“一人でも行動できる主体性”を引き出すことはできたか？ ※“家族と信頼関係を築いておく”ことの大切さを理解できたか？
まとめ	6) 授業の感想を交流し、授業をまとめる	◆今日、おうちに帰って、お父さんお母さんとどんなことを相談しようと思えますか？	

## その3（黒潮町津波防災教育プログラムより）

- 対象学年 : 小学校 5～6 年生  
 ■ねらい : 『“津波てんでんこ”の意味を知り、他者への思いやりや自らの命を大切に  
 する心を養う』

	学習活動	主な発問(◆) 予想される子どもの反応(◇)	指導上の留意点(◎) 評価のポイント(※)
導入	1) “津波てんでんこ”の意味を紹介し、津波からの避難方法を復習する	◆“津波てんでんこ”とは、『津波のときは、家族のことは考えずにてんでばらばらに逃げなさい』という三陸地方に伝わる教えです。 ◆大きな地震が起きたら、どうしますか？ ◇すぐに高いところへ避難する	◎“揺れたら高いところすぐに逃げる”ことを確認する ◎“いざというときに、本当に逃げられるのか”という点に興味を持たせる
展開	2) 動画を見て、感想を交流する 	◆この動画は、東日本大震災のときに、岩手県釜石市に津波が襲来した時の様子を撮影したものです。感想などを発表してください。 ◇津波はとても強い、早い ◇逃げ遅れている人がいる など	◎津波がすぐそこまで来ているのに、避難している途中の人がいることをおさえる
	3) “津波てんでんこ”は現実には難しいことを理解する	◆もし、君がこの動画の撮影者だったら、逃げ遅れたおじいちゃんを助けに行きますか？ ◇助けに行く／助けに行かない ◆このおじいちゃんとその日の朝に挨拶していたらどうですか？ ◇助けに行く／助けに行かない ◆このおじいちゃんが、君の祖父だったらどうですか？ ◇助けに行く／助けに行かない ◆もし、君がこのおじいちゃんのように逃げ遅れたとしたら、誰か助けに来てくれると思いますか？ ◇助けに来てくれる／きてくれない ◆君は、誰かに助けに来てもらいたいですか？ ◇助けに来てほしい／きてほしくない	◎答えだけでなく、その理由についても意見を求め、自分の命と他者を助けることの葛藤や、人によって考え方が違うことをおさえる
まとめ	4) “他者を助けること”と“自分の命を守ること”の意味を考える	◆“津波てんでんこ”は一人で逃げろ、と言っています。では、このようなおじいちゃんは助けなくてよいのでしょうか？ ◆このおじいちゃんのために、どんなことができるでしょうか？ ◇やっぱり見過ごせない ◇すぐに避難するように普段から話しておく	◎いざというときには、まずは“自分の命を守る”ことに全力を尽くし、その後、“助けられる場合には、人助けする”ことをおさえる ◎人助けは、いざというときだけでなく、“日頃からできることもある”ことをおさえる
	5) 授業の感想を交流し、授業をまとめる	◆自分の命を守り、周りの人の命も助けるために、今からできることを考えてみよう。」	※“自分の命を大切にする”という気持ちを引き出すことはできたか？ ※“他者への思いやり”を持ち、人助けのための行動を理解できたか？